

国道 32 号綾南・綾歌・満濃バイパス

国道 32 号は高松市を起点とし高知市に至る幹線道路ですが、本事業区間の旧国道 32 号沿いには民家や店舗が密集し生活道路としても使用されていたため、通過交通と地域内交通が混在して、混雑が発生し交通事故が多発していました。このため、沿道地域の生活環境の改善や、交通の円滑化、交通安全の確保、旅行速度の向上などを目的として、国道 32 号綾南・綾歌・満濃バイパスが計画されました。

綾南・綾歌・満濃バイパスは高松市西山崎町～まんのう町買田間 21.7km の路線で、昭和 47 年度に事業着手し、平成 24 年 12 月に完成供用しました。事業は 3 つの工区に分けて進められました。綾南工区（高松市西山崎町～綾川町小野間 11.1km）は、昭和 47 年度に事業化し、平成 15 年 3 月に暫定 2 車線で開通、平成 16 年 3 月に完成 4 車線開通となりました。綾歌工区（丸亀市綾歌町栗熊東～丸亀市綾歌町岡田上間 6.0km）は、昭和 63 年度に事業化し、暫定 2 車線開通が平成 20 年 12 月、完成 4 車線開通は平成 22 年 8 月でした。満濃工区（丸亀市綾歌町岡田上～まんのう町買田間 4.6km）は、昭和 48 年度に事業化し、暫定 2 車線開通が平成 20 年 12 月、完成 4 車線開通は平成 24 年 12 月でした。

綾南・綾歌・満濃バイパスの完成により、事業効果が現れています。第 1 に渋滞解消と交流支援です。整備前の昭和 55 年と整備後の平成 27 年を比較すると、旧国道 32 号の交通量は約 6 割減少し、交通の転換により慢性的な渋滞は大幅に解消しています。また、バイパスの整備により、旧国道 32 号と合わせた断面交通量は、昭和 55 年から平成 27 年の間に綾川町で約 2.5 倍に増加しており、都市間の交流を支援しています。第 2 に都市間及び空港・港湾へのアクセス向上です。昭和 55 年と平成 27 年の所要時間を比較すると、まんのう町役場～高松市役所間が 65 分から 52 分へ、まんのう町役場～高松港は 70 分から 57 分へそれぞれ 13 分短縮し、JR 琴平駅～高松空港は 34 分から 30 分へ 4 分短縮しています。第 3 に観光・産業の活性化支援です。バイパス整備により、周辺にある金刀比羅宮、国営讃岐まんのう公園、テーマパークなど主要観光地へのアクセスが向上するとともに、農産物の輸送効率の向上により農業の活性化を支援しています。第 4 に住民生活の安全性向上です。バイパス全線整備前（平成 12～14 年）と全線整備後（平成 25～27 年）を比較すると、人対車両事故件数は旧国道 32 号で約 3 割減少し、バイパスでも約 2 割減少しています。

また、バイパス沿道では、例えば綾川町萱原で平成 20 年に大型商業施設が開業し、周辺には飲食店、生活・サービス関連施設などの立地が進みました。平成 25 年にはバイパスをはさんで大型商業施設の前に、ことடன்綾川駅が開業し、周辺には住宅地開発も進められています。綾南・綾歌・満濃バイパスは沿線地域の開発やまちづくりにも貢献しています。
 <参考文献：四国地方整備局事業評価監視委員会資料など>

